

りんごだより

草笛学園 2026年 1月号



あけましておめでとうございます！

新年、明けましておめでとうございます！年末年始はおじいちゃんやおばあちゃん、いとこや普段なかなか会うことができない人に会うなど、子どもたちにとっては楽しい時間になったのではないかなと思います。

さて、今日から2026年のりんご教室が始まります！めだか教室も残すところあとわずかとなりましたが、今年もおうちの方と子ども達が楽しく安心して過ごせるような教室になればと思っています。今年もよろしくお願いいたします！！



* 「みたて・つもり」の世界は「生活の鏡」 *

子どもたちのあそびを見ていると、「よくもま、飽きもせずに同じことばかりを繰り返しているなあ」と言いたくなることがあります。しかし、よく見るとけっして単純な繰り返しではありません。器から器へ移しかえたり、スコップですくって器のなかに入れ分けていくあそびのなかにも、何か具体的イメージがあって、それを反映した子どもなりの意味があるようです。

子どもたちの、一見変化に乏しいあそびも、子どもなりにみたてやつもりの世界があります。葉っぱを敷いて、その上にお砂をのせて、トントンと叩いている女の子に「何つくったん？」と問えば、「カレーライスつくったねん」と返ってきました。さらに、「きのう、おかあちゃんをつくったねん」と補足してくれました。なるほど、昨日の夜、本当におかあさんとカレーライスをつくって、ジャガイモを包丁で切らせてもらったのかもしれませんが。あるいは、ごはんの上にカレーをかけるしごとをさせてもらったのかもしれませんが。

子どもたちの「みたて・つもり」の世界は、「生活の鏡」です。おとなのしごとへ

の憧れの心を芽生えさせ、日々の生活のなかでその憧れをひとつひとつ実現しながら、ここまで成長してきたのでしょうか。そして、この「みたて・つもり」の世界は、これから子どもたちの発達にとってとても大切な力をつくる「発達工場」です。子どもは、この「みたて・つもり」の世界の楽しさを知ると、経験の世界をイメージとして呼び起こし、そしていっそう「みたて・つもり」を豊かにしていこうとするのです。「みたて・つもり」の世界があることによって、しごとへの憧れの心がいっそう高まってくるともいえるでしょう。つまり、「みたて・つもり」はイメージの力の「製造工場」であり、子どもが生活経験を広げていこうとするエネルギーを生産する工場でもあるのです。

このイメージの力が幼児期の子どもの表現を豊かにしていきます。それは、描く・つくる活動だけではなく、はなしことばという媒体を通じて豊かになっていくことでしょう。そして、やがては、イメージの豊かなはなしことばが文脈をつくる力にも結びつき、書きことばの世界をつくる土台にもなっていくはずです。

参考文献 『発達の扉・上』 白石 正久 著

次のりんご教室は…

りんご教室①…2月3日（火）9：20～11：15

→ふる一つばすけつとを行います

◎持ってくるもの 水筒・シューズ

りんご教室②…2月17日（火）9：20～11：15

→ふる一つばすけつとを行います

◎持ってくるもの 水筒・シューズ

『参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。（次回からおたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため）制作や、クッキングの活動の時には材料費として 100 円いただきます。その都度連絡いたします
- ・活動は主に、草笛学園遊戯室での活動となります
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい（ジュース類は控えてください）
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前にご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください